

イノベーション・エコシステム第4回会合へのメモ

伊藤隆敏 (コロンビア大学)

2022年4月24日

これまでの議論を聞いて、つぎのような感想を持っています。

- 「アントレプレナー教育」というよりは、STEM (Science, Technology, Engineering and Mathematics) の教育を小中高大で行うことが重要であると考えます。自然に、科学技術、工学、数学の知識を身に着けていけば、自然な流れとしてスタートアップに結び付く技術を習得していることになる。さらに高校では STEM 関連科目で優秀な成績を収めている学生は、大学レベルの授業をとれるようにすることが望ましい。
- 大学では、第二外国語のかわりに、Computer science のような STEM 関係科目を履修できるようにすることが望ましい。
- Start up への資金提供は内外の投資家から期待できるが、とくに外国からの投資家とのコミュニケーションは、必然的に英語になる。英語教育、とくにプレゼン能力が高められるように、高校、大学の英語教育を抜本的に改変すべき。
- 大学の STEM 関連学部 (およびファイナンス) では教育をすべて英語に切り替えることが Startup 育成には効果的。
- 内外の長期投資家 (G P I Fをはじめとする年金基金、あるいは保険会社) は、ハイリスク・ハイリターンの V C ファンドへの投資を増やそうと思っている。ところが、Later stage の Startup に資金が回らないなど、資金のミスマッチが起きている。この原因を調査すべき。
- Startup (とくに bio 系) は、リスクが高く、単発での投資をためらう投資家は多い。資金量がすくなく、成功しない。モデルナやファイザーの mRNA の技術は日本にもあったが、研究資金がつかなくてワクチン開発に至らなかった。
- ハイリスク・ハイリターンの Biomedical 研究に資金をつけるためには、いくつかの Biomedical Startups をまとめたファンドを作って、そのファンドの権利を切り売りするのがリスク分散につながる。Andrew Lo が提唱しているもの。
<https://economics.princeton.edu/events/andrew-lo-on-new-funding-models-for-biomedical-innovation/>